

修行負担軽減「多彩な経験生かして」

第二の人生 僧侶入門

中高年世代を対象にした全国でも珍しい僧侶養成講座を、岐阜県美濃加茂市の正眼短大が四月から開講した。カリキュラムを工夫し、体に負担のある修行が難しいとされてきた五十〜六十代に僧侶となる道が開かれ、一期生の男性五人が学び始めた。(中野祐紀)

岐阜の短大 養成講座

般若心経を写経する
長浜孝さん＝岐阜県
美濃加茂市で

その後は馬専門の外
科医を開業。オグリキ
ヤツプなど名馬の治療
に参加する一方、骨折
した競走馬五十頭近く
を安楽死させてきた。
「修行は体力的に厳
しいと聞き、あきらめ
てたい」と意気込む。

かけていた。どう生き
直せるかが楽しみ」。
般若心経を唱え、静か
に写経に向かった。
新講座を卒業する
と、身近な寺の住職と
なることができる「前
堂職」の受験資格が得
られる。山川学長は
「豊かな人生を経た人
は、むしろ寺の若い子
弟よりも覚悟が深い。
心を厳しく鍛え、住職
にふさわしい人材に育
てたい」と意気込む。

正眼短大は、プロ野生活を一統けるが、
球・元巨人の川上哲治 新講座の学生は二年間
さんが修行したことで 高裁の元書記官など、
知られる臨済宗正眼寺に茶道や陶芸の講義を
が母体。中高年向け講二、三週間ずつ挟む。
座は住職兼学長の山川 冷暖房を備えた学生寮
宗玄さん(み)が発案し での寝起きも許し、体
力を回復させる。

学生は通常、四力月 学長によると、これ
間、仏教や禅の基礎を まで五十代以上の入門
学び、出家して寺の道 者の大半が二、三万月
場に入門。朝四時から で体調を崩し、山を下
翌日未明まで、座禅や りた。「中高年が修行

読経、境内の掃除など に取り組めば、命を落
の作務がみっちり詰ま としかねない」
った毎日を送る。服装 一期生は、東京都出
は夏も冬も薄い藍染 身が三人、栃木県、福 薬研究のため動物実
めの衣姿に、はだし 岡県出身が各一人で、 ラットを一度に数十匹
だ。 五十八〜六十六歳。一 死なせることもあつ
一般の修行僧はその 級建築士に元市役所職 だ。

卒業後、住職の受験資格



東京新聞

夕刊

●中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211



銀座本店六丁目並木通り
登録商標商号

紙面から

かんぽ新

熱気球
クルド